

2022 年度 自己点検・評価報告書

文学研究科評価分科会

2023 年 2 月

基準4 教育課程・学習成果

2023年度カリキュラム改訂を予定している学部・研究科については、下記の内容について記入ください。

- ・ 授与する学位ごとに、学位授与方針を適切に定めているか。
- ・ 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を適切に定めているか。
- ・ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

2023年度にカリキュラム改訂を行わない場合は、下記の内容について記入ください。

- ・ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2021年度の自己点検・評価で課題となった事項

2021年度受審した本学の認証評価において、以下の点が改善課題として指摘された。「文学研究科社会学専攻博士前期課程及び同後期課程の学位授与方針は、修得すべき知識、技能、態度等の当該学位にふさわしい学習成果を示した内容となっていないため、改善が求められる」と。

【2】2022年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

2023年度のカリキュラム改訂に合わせて、英文学専攻、社会学専攻、人文学専攻、日本語教育専修、英語教育専修（以後、3専攻、2専修）がディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直しを進める。

<最終報告までの達成目標>

企画調査室と連携をとりながら、全学のポリシーとの整合性を確認する。

【3】2022年度の取組みの点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度の取組みの点検】

5月に3専攻、2専修のディプロマ・ポリシー改訂案を企画調査室に提出した。

7月に3専攻、2専修の改訂案作成責任者と企画調査室との間で、5月に提出したディプロマ・ポリシー改訂案及びカリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直しに関して意見交換を行った。

8月末までに3専攻、2専修の改訂案作成責任者と企画調査室との間で個別に意見交換を行い、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー改訂案を提出した。

2023年3月初めまでに3専攻、2専修の改訂案作成責任者と企画調査室との間で個別に意見交換を行い、アセスメント・ポリシー改訂案を提出した。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

企画調査室と連携をとりながら、11月末を目指し完成させる。

基準5 学生の受け入れ

- ・ 学生の受入のための広報活動、および学生の受け入れの適切性について、点検・評価を行っているか。
- ・ 受入れ制度ごとに学生の学習状況を把握し、点検を行っているか。

1. 学生の受入のための広報活動、学生の受け入れの適切性について

【1】2022年度の方針・改善計画・取り組み等（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

(1) 学部、研究科において、直近数年間の入試結果、入学者の動向を分析する。

博士前期課程・修士課程に関して： 2019年度に向けては受験者78名、入学者27名（定員に対する割合・以下同様45%）、2020年度に向けては受験者74名、入学者33名（55%）、2021年度に向けては受験者81名、入学者36名（60%）、2022年度に向けては受験者42名（教育学専攻が本研究科より分離）、入学者19名（2022年に実施した試験に合格した3名が9月に入学予定）（42.2%）であった。

博士後期課程に関して： 2019年度に向けては受験者5名、入学者4名（定員に対する割合・以下同様25%）、2020年度に向けては受験者5名、入学者2名（12.5%）、2021年度に向けては受験者2名、入学者1名（6.25%）、2022年度に向けては受験者5名（教育学専攻が本研究科より分離）、入学者4名（28.5%）であった。

「広報活動」に関して： 2022年度は、以下の2点を実施する。一つは、例年同様11月第1週の金曜日に年1回実施の文学研究科ガイダンスを開催する（22年度は11月4日）。ガイダンスの内容は、入試制度、学費、奨学金等の事務説明および各専攻・専修別ガイダンス。個別の質問や相談、研究の進め方などは担当教員から説明する。もう一つは、HPに学生募集要項を常時掲載していく。

(2) 分析に基づき、対応方針を検討する。

博士前期課程・修士課程については、2019年度以降入学者が定員の4割を超えているが、博士後期課程については、入学者の定員に対する割合の変動が大きい。前者に関しては、上記広報活動を継続し、現状維持に努める。後者に関しては、各専攻・専修のコーディネーターと博士後期課程志望者の状況を検討する。

<最終報告までの達成目標>

【2】2022年度の取組みの点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度取組みの点検】

2022年度今年度以降にすでに実施した入試は、5月に実施した2023年4月入学の学内選考試験・2022年9月入学一般第Ⅲ期入試・外国人第Ⅱ期入試の入試である。受験者数は11名（内訳：2023年4月入学は2名、2022年9月入学は9名）で、合格者数は3名（内訳：2023年4月入学は0名、2022年9月入学は3名）であった。

入学者数ということであると、2023年4月入学は、現時点では合格者がいないため0名で、2022年9月入学は、上記合格者3名は、手続きを終えているため、来月9月に入学を予定している。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

2023年度の入学者を現時点では確保できていないので、今年度入試を通して博士前期課程・修士課程および博士後期課程において前者は定員の4割程度を、後者は1名以上の入学者が確保できるよう努力する。

学生の意見聴取

- ・ 履修、授業、DPに関すること
- ・ 昨年度の学生からの意見聴取を受けて取り組んだ事項について
- ・ 学生生活アンケートから見える本学の傾向性について

【1】2021年度の意見聴取をもとに実施した検討や取り組みの内容

7月20日 人文学専攻・院生懇談会、参加者・修士2名、博士1名：聴取した項目「カリキュラムについて」「研究支援について」「生活について」（詳細は別紙参照）

7月21日 人文学専攻・院生懇談会、参加者・修士4名：聴取した項目「カリキュラム面」「研究支援面」「生活面」（詳細は別紙参照）

7月25日 日本語教育専攻・院生懇談会、参加者・修士2名：聴取した項目「カリキュラムについて」「時習館について」「入試について」（詳細は別紙参照）

9月3日 第5回研究科委員会にて7月に実施された院生懇談会の状況を、担当教員から報告しその後課題を検討し共有した。

10月 院生懇談会にて提出された「時習館」の使用上の問題を大学院事務局を通して解決した。

【2】2022年度の意見聴取を踏まえた2023年度以降の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

2023年度は特に「カリキュラムについて」「研究支援について」の課題について取り組む予定である。

7月20日 人文学専攻院生懇談会 概要

(カリキュラムについて)

- ・外部や外国から来た院生のための入門的な授業が欲しい
- ・領域横断的な研究を行っているので、他専攻の授業を必修科目に振り替えるような弾力的な運用ができればよい
- ・他の専攻の先生の研究にも触れるような機会が欲しい
- ・研究倫理の授業について、ディスカッションの前に説明をしてほしい。また、オンラインでのディスカッションだったので、操作が難しかった。

(研究支援について)

- ・論文の書き方や雛型を教える授業が欲しい
- ・資料の入手に関して補助が欲しい。図書購入費を転用するなどの柔軟な運用ができるとよい
- ・発表できる機会や学会についての情報が集約されているとよい
- ・学内での学会・機関誌の統合により、発表機会がどのように確保されるか不安

(生活面)

- ・時習館が使いにくい、落ち着かない
- ・資料を一時的に置いたり作業したりするような院生スペースがほしい
- ・ロッカーは有料なので、負担になる
- ・ローソン前のスペースが汚れている、リモート授業などに使いづらい

人文学専攻院生懇談会 令和4年7月21日

(カリキュラム面)

- ・他専攻の授業をとる場合、担当教員だけでなく事務の許可も必要なのが煩雑
- ・外部から進学してきた場合、基礎知識を補完するような機会が欲しい
- ・他の院生とも交流できるような場が欲しい(理系の場合、研究室単位で共同作業する場がある)
- ・教員が退官したりして、実際に履修できる授業が限られている
- ・専攻する分野について体系的に学べるような入門的授業がほしい

・院生は学部の授業のシラバスを検索できないので、興味のある授業を聴講したりするのが難しい

(研究支援)

- ・時習館が汚い。匂いがきつい。使うメリットがない
- ・時習館にパソコンが備え付けになっていたりすると、研究に使用しやすい
- ・本来の履修科目だけでは、2年間で修論を書くのが難しい
- ・いつまでに何をすればよいか（たとえばテーマの決定）が明示されているとよい
- ・複写サービスについて補助があればよい。特殊な文献を複写すると非常に負担が大きい

(生活面)

- ・交通費や図書館からの図書を取り寄せる場合の送料の負担が大きい
- ・長期にわたって図書を借りる必要があるが、更新手続きの負担が大きい
- ・奨学金や授業料免除について、留学生だけでなく、日本人学生にも配慮してほしい
- ・科研の申請書類作成のサポートがほしい
- ・食堂などがキャッシュレスに対応していないのが不便

日本語教育専修 院生懇談会 要旨

日時：2022年7月25日（月）15時

会場：Zoom オンライン

カリキュラムについて

・必修科目のうち「第二言語習得論」（大塚先生）が難しくて自分には負担に感じられた。大塚先生には「日本語文法」関係の科目を担当してほしい。

・日本語教育能力検定試験の出題範囲で言うと「社会・文化・地域」領域の科目が「言語政策研究」（山本先生）しかない。他にもあったらいいと思う。

時習館について

- ・コピー機があるが、1枚10円かかる。院生用の割引制度はないか。
- ・図書館資料などはコピーよりもデータ化したほうが有益な場合がある。スキャナー（またはスキャナー機能付きのプリンター）を設置してもらえないか。
- ・机の配置が専攻専修と無関係な配置になっているが、専攻専修ごとにまとめてくれたほうが使いやすい。
- ・コロナの関係で机が撤去されているラウンジの机を戻して、そこで専攻専修を超える交流ができるほうがいい。

入試について

・Zoom オンラインの外国人入試を受験したが、先生方の音声が届き取りづらかった。より
音声がクリアなツールを使ってほしい。